

もちづき
望月こうとく 市政
みんなの声の広場 レポート

第40号

2021年4月15日
発行



<http://www.khotoku.net/> TEL: 045-532-9089
E-mail: info@khotoku.net

**活動ボランティア、インターン生、
議会見学者、かべ新聞掲示場所
ご提供いただける方募集中**

ただ今、望月高徳事務所では、活動ボランティア(市政レポート配布、事務所活動サポートなど)、インターン生(期間を決めて議員活動に同伴)、議会見学者(1名から可能)、かべ新聞掲示場所ご提供いただける方(市政レポートのポスター型かべ新聞版)を募集しております。ご協力いただける方は、下記にご連絡をお願いします。

■ 望月こうとく 政務活動事務所
〒224-0003 都筑区中川中央 1-24-17-201
✉ info@khotoku.net
TEL/FAX 045-532-9089
URL <http://www.khotoku.net/>



メールか電話で
ご連絡ください。



【当レポート発行者プロフィール】

横浜市議員(都筑区選出) 望月高徳(もちづきこうとく)。静岡県出身。1989年4月より横浜市在住。早稲田大学政治経済学部政治学科卒。(株)野村総合研究所社員、学習塾経営、専門学校講師などを経て、2011年4月より現職(3期目)。担当委員会は、水道・交通常任委員会、減災対策推進特別委員会、市会運営委員会(副委員長)。いずれも4月まで。立憲・無所属フォーラム市会議員団所属。政治を志した原点は、学生時代の新聞奨学生体験。政治信条は、公正・共生・寛容。



“皆さまの声”を気軽に寄せください。ご記入日/ 年 月 日

横浜市政や区政、あるいは政治全般について、お気付きの点やご意見があれば教えてください。ご意見は、上記FAX番号へ送信または上記住所へご郵送くださるようお願いいたします。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

(ふりがな)	年齢	性別
ご記入者 氏名	歳	男・女
ご記入者 住所		
ご連絡先 電話番号	()	Email @

※以上の項目は、すべて任意です。可能な項目のみご記入をお願いいたします。 ※お寄せいただいた個人情報は、適正に管理いたします。
※ご連絡先のご記入がある方には、望月から回答のためご連絡を差し上げたり、市政報告会などのご案内をさせていただきます。

Topic 1 **令和3年度横浜市予算は、
総計約3兆9千億円**

IR予算の削除を求める修正動議を提出。

3月23日に本会議が開かれ、令和3年度一般会計、特別会計、公営企業会計の各予算案の採決が行われ、結果、3会計ともに賛成多数で可決成立しました。望月の所属する立憲・無所属フォーラムは、特別会計及び公営企業会計予算案は賛成しましたが、一般会計予算案は反対しました。



▲[3月23日会派を代表し修正動議を提出]

やっぱり問題だらけのカジノ型IR推進

その理由は、原案にカジノ型IR事業を誘致推進するための事業予算が3億6千万円計上されていたからです。カジノ型IR誘致は、①カジノ施設に由来する収益を中心に据える事業構想そのものに対する疑問、②ギャンブル依存症などの懸念事項の存在、③本市の長期にわたる市政運営や街づくりの根幹に関わる重大問題の是非にもかかわらず、市長選挙や市議員選挙などを通じて民意の確認が一切なされていない点などから、望月は一貫して反対であることは繰り返し申し上げてきました。くわえて言えば、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延下で、立ち止まることなく事業推進を図ることも、まったく不適切です。

もちろん私の考えはさておき、事業構想の中身や、そのメリット・デメリットが市民に客観的に充分伝えられ、市民がそれらを理解された上で多数の市民が事業誘致をすべきとおっしゃるなら、そして懸念事項を解決する方法が見出されるなら、検討の余地はあるかもしれません。しかし実際は、上述の①～③の問題点や疑問点に、市長や推進派の議

員から何らまともな回答や解決法の提示もありません。そればかりか前号でご報告した通り193,193筆もの“**我われ市民の声を聞け!**”という直接請求権の行使を、理由にならない理由で門前払いし、むしろ最近では、“**イノベーションIR**”と称して行政がやってはいけぬ、中身が空虚かつ適切ではない一方的なイメージ宣伝を行いはじめました。これは現市長の市政運営の適否に関わる重大問題です。

このまま民意の確認がなされたこともない、多くの問題点が指摘される事業を、市民合意がないまま、一方的に推進させることを議会が認めることは、住民本位、住民参加の民主的な政治プロセスを最大限尊重し、実践すべき地方自治において相応しくなく、また市民の政治への不信を招くだけとなります。

予算案修正動議を提出

ここでカジノ型推進IR予算を認めると、2019年8月の市長による誘致表明以来そうであったように、「まだ事業が決定

してないから」というような言葉でまかしながら、実際は誘致結論ありきで事業推進が図られることは目に見えています。したがって予算を認めるわけにはいきません。

私たち会派は、採決に先立ちまずは、IR推進に関わる予算3億6千万円、原案からの削除を求める修正動議を20名連名で提出し、その趣旨説明を望月が代表し行いました。**修正動議は、33名の賛同を得られましたが、自民・公明の反対多数で、残念ながら否決されました。**その後、続いて採決された新年度一般会計予算原案は、IR推進費が含まれているため会派として反対しました。しかし結果は、自民・公明の賛成多数で可決成立となりました。予算上は、このままカジノ型IR事業が推進されていくことになります。

今年の夏の選挙が最重要

ご存じの通り地方政治は、首長〔市長・知事など〕と議会の二代表制です。市政運営の方向性を大きく変えていくには、市長を代えるか議会構成を変えるしかありません。今年の8月22日(日)には市長選挙があります。現市長が出馬されるかどうかは分かりませんが、市政を変えるには、この夏です。**この夏の選挙での市民の意思表明が、これからの横浜市のあり方を大きく左右します!**

カジノ型IR推進だけではない 予算反対理由

一年前の令和2年度予算審議に関連して、当レポート第36号で、望月は以下のご報告を行いました。

いま注力すべきは、新型コロナウイルス対策!!

世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、残念ながら長期化すると覚悟する必要があります。しかし市長は、そう捉えていないかのようです。カジノ型IR導入だけでなく、インバウンド(外国人観光客)頼みの事業(例えばクルーズ客船誘客事業など)や新たな劇場整備を進めようとしています。“新たな生活様式”が求められている今であっても、遠からずこれまでの状態に戻せるとお考えになっているようです。もちろん、そうあって欲しいとは思いますが、現実と向き合う必要があります。いま必要なのは、不要不急の事業は止めて、“市民の健康と命そして暮らしを守る”施策の実施に予算も人員も集中することです。当然、次の感染拡大の波に備え、想像力をもって、ありとあらゆる対策を総合的に進めていくことです。(みんなの声の広場第36号から抜粋)

現市長のこの一年の市政運営を振り返り、今後の市政の方向性を決める令和3年度予算を見ると、一年前に危惧した通りです。コロナ禍をあまり深刻にとらえていらっしやらないのではないかと思います。市長ご自身は、危機感を持っているのかもしれませんが、外から見るとその必死さが伝わってきません。相変わらず、**何百億円かかるか分からない“新たな劇場整備”を市民ニーズの確認もなくご自身の思いだけで進め**コロナ禍前と同じようにインバウンド頼みの事業による市内経済の活性化を図ろうとしています。

しかし、いま最優先すべきことは、不要不急の事業の見直しと、本市でのコロナ対策の拡充です。それは、大きく言って2つの面からです。ひとつは、感染拡大防止策の徹底や医療体制の拡充などの防疫・医療面での施策の強化。もうひとつは、経済的に危機に瀕している市民や事業者への支援策を、支え合いの精神を社会全体で共有しながら充実させることです。

コロナ禍から市民生活を守り抜くという強い意志を感じさせる市政運営であり、予算編成でなければ、予算を認めるわけにはいきません。

Topic 2 経済局予算審査で コロナ禍の本市の 経済施策を問う!



▲(3月10日経済局予算審査より)

3月10日に開催された予算第一特別委員会において経済局予算審査に立ち、**“コロナ禍における本市の経済施策のあり方”の視点から、当局と質疑を行いました。**

私は、通常時の経済活動は、個々の事業者や個人が自らの創意と工夫によって自立的に行われるべきと考えていま

す。特に企業活動は、そうあるべきです。理由もなく政治への近さだけで経済的な支援を受けられる不公平があってはいけない。そうした不公平は是正していかなければ日本の経済的な成長力は生み出されないと考えています。

市民の生活と命や財産を守ることが、 政治の最大の役目

一方で昨年の春以来、コロナ禍という誰も予想できなかった世界規模での経済・社会活動上の危機が続いています。これは非常事態です。個々の事業者や個人の努力ではどうにもならない危機に直面し、経済活動や生活を脅かされている方々が多くいらっしゃいます。

コロナ禍という市民の生活や命を脅かす災害に対して、市〔行政〕は予算や人員が限られた中であっても、最適な優先順位を付け効果的に施策を実施し、最大限に市民生活を守っていくことが大切です。また、そうなるように仕向けられるかどうかで、議員としての存在価値が決まってくると考えています。**なぜなら政治の最も大切な役目は、市民の生活と命や財産を守ることです。**

経済局に対して、まず「今回の危機をどう認識しているか」、次に、「特に優先して支援すべき業種や業態あるいは市民の方は、何なのか誰なのか」、そして「具体的には、どういった支援策を行うのか」、それでは「新年度の予算は、そうなっているのか」、以上のことを問題点や改善すべき点を指摘しながら総論として問いました。

具体的には、緊急雇用創出事業、商店街プレミアム付き商品券支援事業、成長・発展推進事業、オープンイノベーション推進事業、これからの産業育成・成長戦略その他を取り上げました。

コロナ禍で、予算や人員を最大限活用し、真に実施されるべき施策が着実に実施されるよう、議員としての責任を果たしていきます。

横浜市新型コロナウイルスワクチン接種 コールセンター

☎ 0120-045-070 9時～19時まで土曜日、日曜日、祝・休日も実施
FAX 050-3588-7191 ※耳の不自由な方のお問合せ用FAX番号です。

新型コロナウイルスのワクチン接種の予約を受け付ける「予約センター」の電話番号や開設時間、ウェブ受け付け方法等については、改めてお知らせします。(市のHPより転載 令和3年4月15日時点)



横浜市の当初予算について



横浜市の毎年度の当初予算は、2月に市長から議会に3会計〔一般会計、特別会計、公営企業会計〕の案が上程され、①代表質疑、②関連質疑、③局別審査、④委員会採決、⑤本会議採決の流れで、議会での質問・審査を経て、3月下旬の採決で過半数の賛成を得られれば成立となります。

令和3年度予算は、Topic1でご報告の通り結果として可決成立となりました。予算規模は、一般会計が約2兆円強、特別会計が約1兆3千億円、公営企業会計が約5千9百億円強となります。総額では、約3兆9千億円となります。

一般会計を見ると、市民一人当たり約53万円強の予算となり、主な使い道は、子育て・教育に約30%、福祉・保健・医療に約25%、経済の活性化などに約13%、街づくりに約12%となっています。

市営地下鉄の遊休地活用



▲〔利活用を求めているセンター北駅1番口ホーム下空間〕

市営地下鉄の線路高架下などの遊休地・遊休空間の利活用が、駐車場や保育所施設などの形で以前に比べ進んできました。利活用できるにもかかわらず、まだ未利用のままの土地や空間は資産として活用し、市民の利便性や街の賑わいにつなげるとともに、少しでも市財政に寄与させる必要があります。仮に一般利用が難しい空間でも見苦しいまま放置せず、魅力ある街空間につながる活用をすべきです。

例えば、市営地下鉄センター北駅1番口につながる1Fのホーム下の空間も、そうした利活用すべき場所です。同所付近は、現在、天井の修繕作業などを行っています。修繕ならびに利活用するに相応しい改善工事を済ませた後は、市民(区民)に利用計画を説明・提示しながら活用することを現在求めています。